

3/20(日)まじじい倫理号です。送信は今日になり申し訳ありません。  
地球の安泰。保全を願う3月の。ウツクは破壊されている今日の頃

今週の

倫理

何んかおなじみでどうか

草と海が

2022. 3. 19~3. 25

3月のテーマ | 地球倫理

アホ一鳥

1273号

私たちが生きている「地球」は、太陽系のみならず、広大な宇宙から見ても極めて稀有な惑星です。

地球は太陽からの距離が程よく、大気圧も適切で水が液体として存在できる温度が保たれており、生命が存続するために必要な様々な課題をクリアしています。こうした奇跡的な条件を満たした地球があつて、生命は初めて生存することができます。私たち人類も、地球がなければ経営はもちろん、生きていくことさえできなくなってしまうのです。

様々な商品やサービスが毎日のように生み出され、生活がますます便利になっている昨今ですが、製造の過程や使用後に発生するゴミの処理などを考えると、人のエゴによって地球を傷つける結果に終わっていることも少なくありません。地球環境を悪化させることは、未来に生きる人々の生活を脅かすことに繋がります。それは、「人のため」という想いが、「人のため」になっていないということになりかねないことを示しています。

地球全体の視点から見るとは、現代においては絶対に必要不可欠である。地球の安泰保全ということは、すべての生活の基礎である。(中略)

これはたんなる環境だけの問題ではない。自分の利、自国の繁栄だけでは存在しえないという人倫の哲理を如実に示す大切な問題なのである。

『新経営倫理学』



## 事業目的の根幹は「地球の安泰」にある

事業の目的を具体的に設定することは事業繁栄の第一歩です。その目的を策定するにあたり、「地球の安泰」が決して外せない眼目となります。「地球のために」という前提があつて初めて、「地域のため」「お客様(人)のため」という目的が成り立つのです。

大規模な環境保全活動などは、事業の合間で簡単にできるものではないでしょう。しかし、小さな実践を一人や一企業から積み上げていくことはできます。

倫理研究所の第二代理事長丸山竹秋は、地球倫理の具体的な実践として、次の四つを挙げています。

- ① みどりを増やそう
  - ② ゴミを減らそう
  - ③ 水を大切にしよう
  - ④ エネルギーを大切にしよう
- これらの実践項目は、誰でもいつでも始められることです。また、どのような業種であっても、仕事に組み込める内容でしよう。

こうした地球倫理の実践を経営者が先陣を切つて行ない、従業員にも浸透させることは、企業を挙げて地球への恩返しをすることに他なりません。

実践によって積み重ねられた地球への感恩の心は、次世代の経営者に受け継がれていくことでしよう。地球倫理を基軸とした経営を継承していくことで、巡り巡って本当の意味での「人のため」の事業になるのです。